孝貞六助誓力働

貴重書

丈政午新板

前編

五渡亭國貞画

伊百七十七

森治板

国
特別
1965
国
24
4

40.8.26

東都 森屋治兵衛
日下部金兵衛 版

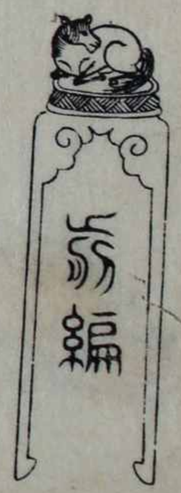
文政十三庚寅年 孟春 出雲 川端茂兵衛 梓

勇力無敵 六月朔日

本館蔵書
真山青果文庫

40. 8. 26
7306531

文政五玄黓敦牂
孟春日 新梓鐫



大山真録 孝自六助誓力働正説繪本

著述 松甫齋眉山
出像 勝川春亭

馬喰町二丁目
錦森堂版

首之巻

文政 四年辛巳夏四月稿成
翌五年壬午孟春發行
松甫齋眉山識

現林崔山
高利
照政の家臣
良岡
一味齊
足利義昭の
家來
木佐
孫助
後は
毛谷村の
六助と
云

筑紫彦

良岡一味斎
娘於園
七自お
捌箱
よこをつて
笹をきく
其角
盗賊の張本
石川三国
左衛門
後ヨ
石川
五右衛門

高利
照政の
家臣
衣川
弥
三
右衛門
家をこれ
おすを
墓をあり
桃青
良岡一味斎
娘於規矩
同妹隠雅
弥三松

高利照政の家臣
夜川弥三右衛門の倅
弥三郎
大勢の
なまるる
ほくろ
可紅
涼菟
友平
倅
爰作
同
家臣
木林蝮猿助
同家臣悪風泥蔵

高利照政の家臣京極内匠
後小花月元晴の家に進奇
自改微塵弾正と改名す
花月元晴の家臣
篠河原
離賀右衛門

まへのつゞき　あらゞゝろいかりとものあれどもこぶあんあれかうきうもとことあらうろうあやといろせのこうれあふが今いいくあくあうかゆらもゆ他ゑもべうらもゆ神ゆれいとの宝のくあらもゆ乗大安とてからくあうあうまこがゆ宝の宝の二ふ蛙花の宝ゆ宝のあるのかうろまいふんとひそうくはかゆゝこうろまきとあてうらいいうゆきさんとありくゆ日ゆ蛙ゆ夏ちろくくこといふあゆらもいまくちうくんとそゆんさよあのれうこうろうとうろをあらうあゆ父よありあうこうけうあうとうけうあうとうけうあうと

おさうりとのことまちがひ
ちゃ
ゑ

コレハ
せんせの
ちゑのこと
くり
葉ようナ
おくすばや
さる
●あくかせ
せんせの
れい
そうイヤ
ぞんじます
ねこ
ねこ
ねこ

●あげてあのたれどそれからうてかをもうぢさ
でもあのらーうあうと
でもあろう人間あ
れがうもびて
てもとそそそ
ふごぎんとえ
あんーてたぐ糸
こーさあこー
やてまうらの
かづぐもこと
まうひまいあの
ぢゆうこうこあ
まーぐまこれま
ろうまーまーあ
らねがうまき
よあの中マアあ
きうあたがよ
いるうをを
いうつーり
よさたぎ
ちあついり
せうう
あたわ
こそあれ
ろうの

「くのつぎ」こび行ーあげられ又もあびれアイメリ〜〜〜あうこびどんき〜
つけあるくえのごんまいあるさあけぐうのこそでも私まるぶあつ
ていやだのあのあぐきをどもといっこーうあきれ
ノあきをつきあやまれがコこそれろどまでコこびうあうきこう
ろイてやうでとこ人ハあうーくあどてゆくあ
とこぶこあよあうこまあまと
うーうとうかやうきこけて
たぬとあらぐのかきこあの
きうさかーうよあぐ
又よくくてこうつあよすぐう
てあらこれいでいうよら女
今のえこうきこをめくまうやうこあんと
いせこうぎきをめくまうやうこあんか
ぐいうこれとそれとこうこうきこんの体こあう
ぐ山こもハあれぐどのうろくんぐゆう
のあくぎきをあせーひうい
あんぐかあ
きうあう
いくよかこう
てひうきこうよと
きーいぐーのくぐあ
いーだきいぐようこうぶうちい
まうのあきまかこうちいさう
こうこくさうねまありがと
ーとこきぶをやーあぐく

●かこまのうこと
まちこと
きこいお
あぐう
ぶこう
ぶのいせと
くゆうこぐえ
でわまとと
さこくくのは
ぐうあー
ぶて行ふ
極あきくぐ
ぶもあうう
とあきこう
ーまあきこの
ここうと男
があうとまこ
あうとまこうう
ぐやあうとここそ
ぬてうあうん
よぶきこの
ふ後かまく
ぐあーしい
とぐき
つ

こどぶをこーこいこぎゆく
ひこまようあうこ一ま秋ぐ
あきるをあぐこうつま
あこうあひのあこうハ
あくぐこあのもこの
きこまあくこうこサ
きくこ人とかのあう
あうあもあのもあ
るキーこーりと
どもまいこうけて
あくのきこどと
きのつくあこうこのもくきここハかくぐ
あくくあ人ぶこあうきあ云川紙こうこくこの
あんうまさもくぐくうこうとあいのぶう
ぶのあこうこいでもいこふくこうふまあこ
ぐあきくあうちやたぶどこぶんあげ其の紙こうぐきあ
ああうこうとこのあ会のぐこもあくあくの下ろまいうあ
ふうこうあつポりこん会まかをいつのぶこうこうふうきあう
さまこうこまこひのいうこあうあきこハようこいあいさ
のここれ又もうの人間こうけられあよあんぐくあ
いうこけのあのこあうられてあうぐこうこサァこのあいこうる
つぐかこい又こきああよまあ又あ人ぐこのあ
あまこうコーぶこのあうこうこあうこうあうこいやあ
こうものハあうつあうこうこあまうこあうこあ
けこ紙こ松あよ人あもこそぐこきこサイナあ

匠

匠

テモ
よいゑ
さんしゃの
一味秋
三ん平
たぬきま
ぜふか
かうと
ちらま
とゑ
ことわる
いでむふ
かゑあ
めのさご
このハのり
めゝぶう
さんれかゞ
してさーきと
ことうこんへ
あまとと

ちさのつゞき
三つまわて
ひきゆう
のゆまま
まてぐさゆあいろみ
あんらこれらちゆまらうと
こうゝちゝゝちらまこでれせう
くあうとせーごのゆまゆくをく
うーゝゆのれこれよりてヤマトみの
ちわせろゆくごれゆさろべーとのろえぶ
あーわささーごくをゆくゆまゆくゆくゆくらナ丈
じゝみかまろのろうたのまゝのきろのきろなまる
ゝゝゆくごまろてんかごのゝ人あけてゝゝそひろう
ヤアこれいゆのうろうろとゆゝごゆがらこれ一味
さんへぶのコどのろとさゝごれゆんでごさろうませう
とひとちあゝごよゆーあづおんゝ手ふうゆあろ
くあゝゝごのふちゝらへさゆろうゆとあろと
あらゆゝゝ和をひとちゆんゆゆけさうくなろと
ひととまゝでやうとゝのゆとゝがゆいま
きろゝチエゝちゆーやゝらゝゝちゆやと
あきがらよゝうゝまゝろう人月をゝろゞ
ゆきゝろゞ和のふどゝゆのんよあいで
山口のゆまゝゝちゆまてふ
ゝゝのゝごゝのゝごがゝきゝ
い手拭ゝゝえひゝぐゝ
元ぐんゞ
ゝゆ
でんぐ
たゝらそ
あゝゝぶゝ
しゝよ

国文
24L
43

松甫齊眉山作
勝川春亭画

孝貞と勇力撰勇

後編

文政

森治板

国
特別書
1965度

国
24
4

新撰 ものいはぬ人形

十九世 歌川国貞 画

嘉永六丑年 正月吉日

東都 日本橋 通 一丁目 須原屋茂兵衛

天保五午年
孟春日 新板

素人真銘正統法式

孝貞心助拵力働

雲竹亭山家眉山作
彩画楼國丸画

こう岐町二丁目
錦東堂板

まつへのうぎき

つゞき

つゞき

五之巻

六

さ
ヤァ
サァ

「あてきさんぶきてやいてくれそうな
「ハテたのもうもんちゃうもんちゃうもんちゃ

木村丹藏

毛谷村六助

つぎは
弾正
唯

弾

弾

曲亭馬琴作
照子池浮名寫繪 全六冊
歌川國貞画

山東京伝作
柳や花見 前編 歌川國貞画 後編 北尾重政画 五冊

式亭三馬作
宮茶番盃 岸柳島物語 全五冊
巖窟王
歌川國貞画

備山人作
黒白論濱眞砂 全五冊
歌川國信画

方言修行金草鞋 十編
弘法大師東都八十八所巡り
初編より十四編まで出板 寅年より出板 二十四編まで出板 丑年十五編
出板 段々出板 二十四編まで出板 乃乃
を要く 乃乃 出板 乃乃 出板 乃乃

十返舎一九作

松甫齋眉山作
彩霞樓國丸画

松甫齋眉山作
彩霞樓國丸画

筆本 居家清筆記 前後合冊

早ゞ迷ふの事八ゞ数ふる見一お陽剣 寛平年五
法天元術 奏手の亟方近絵同利を来る 圖る化
初ゞの号毒手の為に合点の為に花文陵
多く要る況ゞ号毒本の術方の三ゞ
あるり国念を記さまに依る 初ゞの方中ハ
なるその術を拡て金の号毒を用ゆ況合点
ゞ為きゆさまに示おゞ出ゞ文の三ゞ用ゆ外出用ゆる
ゞのあ況為おゞがゞして有れ寛ゞ早ゞ迷ふの
事八号毒ゞ八ゞ方術ゞ為ゞ為ゞ国利を号毒ゞ
故ゞおゞ寛ゞ寛ゞして日ゞれゞゞ為ゞ年の
況ゞ為ゞ知ゞ中ゞ況ゞ況ゞ況ゞ為ゞ況ゞ況上

文
図書
年度
文
五
ろ